

平成31年三重県議会定例会

医療保健子ども福祉病院常任委員会

説明資料

	頁
【 所管事項説明 】	
1 三重県病院事業 中期経営計画 平成30年度の取組成果と平成31年度の主要な取組について	1
2 津市白山・美杉地域における在宅医療・介護の提供体制等に関する津市との協議概要について	12

平成31年3月7日

病院事業庁

【所管事項説明】

1 三重県病院事業 中期経営計画 平成 30 年度 of 取組成果と平成 31 年度の主要な取組について

《 中期経営計画の策定趣旨 》

病院事業庁では、国・県の医療政策の動向や県立病院を取り巻く環境の変化、県立病院に求められている役割・機能等をふまえて、病院事業の経営を中期的な観点から計画的に推進し、それぞれの県立病院が県民の皆さんに医療サービスを安定的かつ継続的に提供していくため、平成 16 年度から「三重県病院事業 中期経営計画」を策定しています。

平成 30 年度は、平成 29 年 4 月 1 日から平成 33 年 3 月 31 日までの 4 年間を計画期間とする「三重県病院事業 中期経営計画（平成 29 年度～平成 32 年度）」を平成 29 年 3 月に策定（平成 30 年 3 月に一部改訂）し、本計画に基づき、病院運営を行っています。なお、本計画は、総務省から、公立病院が安定した経営のもとで必要な医療を継続的に提供していくために、策定を求められた「新公立病院改革プラン」として位置付けているとともに、「地域医療構想」をふまえた内容を記載しています。

《 平成 30 年度の取組成果と平成 31 年度の主要な取組 》

こころの医療センター

平成 30 年度の取組方向

平成 30 年度は、県内の精神科医療における中核病院としての役割を担いながら、適切な入院診療機能を確保するとともに、外来患者に対する地域生活支援の一層の充実を図るなど、多様な医療ニーズに応じたきめ細かなサービスの提供を通じて、健全な病院運営に努めていきます。

平成 30 年度の取組成果

【精神科救急・急性期医療の提供】

○三重県精神科救急医療システムの支援病院として、休日・時間外などの救急患者の受入れに対応するとともに、自傷・他害のおそれがある場合に実施する措置鑑定診察の要請に対しても積極的に対応（61 件）しました。

目標項目	H30 目標	H30 見込	H31 目標
精神科救急患者受入件数（件）	230	240	230

【専門的医療の提供】

○認知症に対しては、専門外来（もの忘れ外来）と専門病棟（認知症治療病棟）による切れ目のない治療を提供しました。また、家族等からの認知症相談などに対応する認

【所管事項説明】

知症疾患医療センターとして、認知症相談対応（891件）や、保健・医療・福祉等の関係者を対象とした認知症に関する研修会を開催（参加者130人）しました。

目標項目	H30 目標	H30 見込	H31 目標
認知症入院患者数（人/日）	40.0	37.0	40.0

○アルコール依存症治療の専門病棟を有する病院として、専門性の高いプログラムを提供しました。また、アルコールデイケアサービスの提供や家族等を対象とした研修会の開催などを通じて、断酒の継続を支援しました。

目標項目	H30 目標	H30 見込	H31 目標
アルコール依存症入院患者数（人/日）	30.0	26.0	30.0

○精神科における早期発見・早期支援・早期治療を推進するため、院内に設置しているユース・メンタルサポートセンターM I E（YMSC-MIE）の運営を通じて、精神疾患に悩む若者やその家族等に対するきめ細かな支援を行いました。また、教職員や保護者を対象とした研修会を開催するなど、関係機関と連携を図り、若年層への支援に取り組みました。

目標項目	H30 目標	H30 見込	H31 目標
精神科早期介入対応件数（件）	200	180	200

【地域生活を支えるための支援】

○外来患者の地域生活を支援するため、多様で効果的なプログラムを用いたデイケアサービスや、訪問看護サービスを提供しました。

目標項目	H30 目標	H30 見込	H31 目標
デイケア・ショートケア延べ患者数（人）	18,000	13,000	18,000
訪問看護延べ患者数（人）	5,000	4,800	5,000

○長期入院患者の地域移行が可能となるよう、市町、障害福祉サービス事業所などの関係機関と連携し、院外のデイサービスの体験利用や就労作業所の体験実習などの支援を進めました。

目標項目	H30 目標	H30 見込	H31 目標
入院後1年以内の患者退院率（%） ※H31.1末時点	95.0	94.2	95.0

○さまざまな精神疾患を有する患者の医療ニーズに対応し、地域での安心した生活につなげていくため、関係機関と意見交換会を開催するなど、顔の見える関係づくりを推進しました。

目標項目	H30 目標	H30 見込	H31 目標
障害福祉サービス事業所等との連携取組件数（件）	6	6	6

【所管事項説明】

○精神障がい者や精神疾患に対する正しい理解を広めるため、教育機関や各種団体等へ講師を派遣する出前講座「こころしっとこセミナー」に積極的に対応しました。また、病院と地域住民との交流の場づくりとして「こころしっとこ祭」を院内で開催（参加者約 500 人）しました。

目標項目	H30 目標	H30 見込	H31 目標
こころしっとこセミナー開催件数（件）	32	70	34

【人材育成の充実】

○県内の精神科医療水準の向上のため、初期研修医・看護実習生等の受入れ依頼に対して積極的に対応するとともに、院内の医師や看護師等の専門性向上のための研修を実施しました。

目標項目	H30 目標	H30 見込	H31 目標
研修医・看護実習生等受入延べ人数（人）	2,200	2,300	2,200
人材育成研修回数（回）	5	5	5

【業務改善の推進】

○患者や家族の方々の視点に立った医療を安全に提供するため、医療倫理や医療安全に関する院内研修会を開催するなど、職員の意識・知識の向上等に努めました。

目標項目	H30 目標	H30 見込	H31 目標
危機管理研修等参加率（%）	91.0	91.0	92.0

○患者満足度が向上するよう、患者の皆さんの意見等をふまえて、和式トイレを洋式トイレに改修したり、接遇研修会を開催したりするなど、ハードとソフトの両面で取組を行いました。

目標項目	H30 目標	H30 見込	H31 目標
患者満足度（%）	92.8	81.1	94.3

【経常収支比率・医業収支比率の向上および患者数の確保に向けた取組】

○4月に経営改善プロジェクトを設置し、紹介患者の減少により新入院患者数が減少していること、また、平均在院日数の長期化や効率的でない病床管理により診療単価が減少していることなどの課題を抽出しました。それぞれの課題を解決するため、プロジェクトの作業部会として医師を含む多職種の職員で構成するタスクフォースを結成し、9月末までに経営改善に向けた様々な取組のアクションプランの検討を行い、10月以降、順次取組を開始しました。今年度は、すぐに全ての取組で成果がでたとは言えないものの、救急・急性期病棟の収益向上など経営改善の兆しが見えてきたほか、職員の経営改善に対する意識の向上や、各部門間の意思疎通が円滑になるなどの効果も得られました。

【所管事項説明】

目標項目	H30 目標	H30 見込	H31 目標
経常収支比率 (%)	101.3	97.1	101.2
医業収支比率 (%)	74.4	66.7	74.0
1日平均入院患者数 (人/日)	295.0	277.0	296.0
1日平均外来患者数 (人/日)	275.0	224.0	275.0

＜アクションプランの主な取組＞

- ・外来予約枠に紹介患者を優先的に診察する地域連携枠を設定

クリニック等の紹介元との連携を強化し、緊急性の高い患者に速やかに対応することで入院患者の確保を図る。

項目	前年同期	10-1月実績
新入院患者数 (人/月)	53	54

項目	前年同期	10-1月実績
紹介患者数 (人/月)	50	59

- ・入院患者の帰来先の開拓

入院患者の退院を促進するため、障害福祉サービス事業所等と連携を行う。

項目	前年同期	1-12月実績
1年超長期入院患者の地域移行 (人/年)	17	21

※1～12月の1年間で地域移行した長期入院患者数を目標項目としています。

- ・再入院防止プログラムの作成および病床管理の仕組みの見直し

退院後の安定した地域定着を図るため、個々の患者について再入院となった原因を分析し、多職種で問題解決に向けた取組を行う。また、緊急性の高い患者を受け入れるため、転棟の仕組みをルール化し、閉鎖病棟の空床確保を図る。

項目	前年同期	10-1月実績
救急・急性期病棟入院料 (千円/月)	57,278	59,960

- ・入院中患者の事前のデイケア見学による利用促進

退院後のデイケアへの移行を円滑にし、利用患者の確保を図る。

項目	前年同期	10-1月実績
デイケア利用件数 (件/月)	1,106	1,004

- ・病棟看護師と作業療法士の連携強化による作業療法の利用促進

患者情報の共有化など病棟看護師と作業療法士が連携し、利用患者の確保を図る。

項目	前年同期	10-1月実績
作業療法利用件数 (件/月)	1,622	1,884

【所管事項説明】

- 経営改善プロジェクトにおいて、国の精神科医療政策の動向や患者ニーズ、県立病院としての役割を見据え、救急・急性期機能の強化や病床利用率の低い病棟の再編など将来の病棟機能のあり方を検討しました。

平成 31 年度の主要な取組

平成 31 年度は、精神科救急・急性期医療等の政策的医療や、認知症治療、アルコール依存症治療等の専門的医療に取り組むとともに、訪問看護やデイケア等の地域生活支援を実施し、多様な医療ニーズに応じたサービスを提供していきます。

【精神科救急・急性期医療の提供】

- 三重県精神科救急医療システムの支援病院として、引き続き、救急患者の受入れに対応するとともに、措置鑑定診察にかかる保健所からの要請に的確に対応していきます。

【専門的医療の提供】

- 認知症治療においては、専門外来（もの忘れ外来）と専門病棟（認知症治療病棟）による切れ目のない効果的な治療を提供するとともに、認知症疾患医療センターとして、家族等からの相談にきめ細かに対応しながら、積極的に普及啓発を進めていきます。
- アルコール依存症治療においては、引き続き、専門性の高いプログラムを用いた入院治療を提供するとともに、アルコールデイケアサービスの提供や家族等を対象とした研修会の開催などを通じて、断酒の継続を支援していきます。
- 精神科早期介入・早期予防においては、引き続き、ユース・メンタルサポートセンター M I E（YMSC-MIE）において、若年層やその家族等からの相談に対応し、必要に応じて院内の外来診療につなげるなど、切れ目のない対応を進めていきます。

【地域生活を支えるための支援】

- 外来患者の地域生活を支援するため、引き続き、多様で効果的なプログラムを用いたデイケアサービスや、訪問看護サービスを提供していきます。
- 市町、障害福祉サービス事業所等の関係機関と十分に連携しながら、症状や生活環境等に応じた適切な退院支援を行うことにより、入院患者の入院期間の長期化を防止していきます。
- 地域社会において、心理的作用（ストレス）や精神疾患等に対する正しい理解を得るため、出前講座「こころしっとこセミナー」等の普及啓発に取り組んでいきます。

【所管事項説明】

【人材育成の充実】

○県内の精神科医療水準の向上のため、引き続き、多くの初期研修医や看護実習生等を受け入れるとともに、院内の医師や看護師等の専門性向上のための研修機会の充実に努めていきます。

【業務改善の推進】

○「声の箱」や「患者様アンケート」等を通じて、こころの医療センターに対するご意見等を把握・分析し、必要となる取組を検討・推進していくことで、医療サービスや職員の接遇面での対応力の向上を図っていきます。

【経常収支比率・医業収支比率の向上および患者数の確保に向けた取組】

○経営改善プロジェクトで実施した取組の成果を検証のうえ、引き続き、経営改善プロジェクトで患者および収益の確保等に向けた取組の検討、実施を図り、経常収支の黒字をめざしてまいります。また、病棟機能再編については、引き続き、将来の病棟機能のあり方について検討を重ねてまいります。

一 志 病 院

平成 30 年度の取組方向

平成 30 年度は、プライマリ・ケアを担う医師や看護師等の医療従事者を安定的に確保したうえで、総合診療医を中心としたプライマリ・ケアの実践やプライマリ・ケアにかかる地域人材の育成など、引き続き、一志病院に求められる役割・機能を果たしてまいります。

平成 30 年度の取組成果

【地域医療の推進】

○地域のあらゆる医療ニーズに対応できるプライマリ・ケアを実践するとともに、通院が困難な患者に対する訪問診療や訪問看護、訪問リハビリテーション等の在宅療養支援、また、住民健診、人間ドック、がん検診等の予防医療に取り組みました。

目標項目	H30 目標	H30 見込	H31 目標
訪問診療、訪問看護等延べ患者数（人）	4,000	4,700	4,000
住民健診、人間ドック、がん検診受検者数（人）	1,400	1,450	1,400

○初期救急医療を担う医療機関として、24 時間 365 日の救急受入体制を維持し、白山消防署との救急ホットライン（医師との直通電話）や近隣診療所等との外来ホットライン（看護師長との直通電話）を活用しながら、地域の救急医療体制の確保に貢献しました。

【所管事項説明】

目標項目	H30 目標	H30 見込	H31 目標
救急患者受入件数 (件)	1,000	1,200	1,000

○へき地医療拠点病院として、県内のへき地診療所への代診医派遣 (2回) を行うとともに、津市美杉地域の診療所に対して医師派遣等を行い、医療過疎地域への支援を行いました。

目標項目	H30 目標	H30 見込	H31 目標
医療過疎地域等への支援件数 (件)	7	7	7

○地域の医療・福祉・保健関係者が参画する「美杉・白山・一志 保健医療福祉連携会議」の開催や、課題検討会等を通じ多職種連携の体制を強化する「美杉・白山・一志 顔の見える会」、地域のイベント等への参画などを通じて、顔の見える関係づくりに取り組みました。

目標項目	H30 目標	H30 見込	H31 目標
多職種連携による取組件数 (件)	30	35	30

【人材育成の充実】

○総合診療医の育成拠点施設として、初期研修医、医学生等を積極的に受け入れるなど、一志病院の診療圏をフィールドにした実践的な研修を実施しました。

目標項目	H30 目標	H30 見込	H31 目標
初期研修医・医学生受入延べ人数 (人)	600	564	600

○地域看護への理解と関心を高めてもらうため、看護実習生等の受入れ依頼に積極的に対応しました。

目標項目	H30 目標	H30 見込	H31 目標
看護実習生等受入延べ人数 (人)	330	337	330

【地域医療提供体制の確保に資する研究活動の推進】

○院内の「研究やろう会」の開催等を通じて、研究に対する意欲の醸成に努め、多くの学会等での研究発表や学術雑誌等への論文発表を行いました。

目標項目	H30 目標	H30 見込	H31 目標
学会、論文等発表件数 (件)	30	35	30

【プライマリ・ケアセンターへの支援】

○医療過疎地域に必要なプライマリ・ケアを実践できる医療・介護従事者の育成を図るため、三重県プライマリ・ケアセンターと連携し、プライマリ・ケア エキスパートナース研修会等の開催やプライマリ・ケア エキスパートナースの認証について支援しました。

【所管事項説明】

目標項目	H30 目標	H30 見込	H31 目標
プライマリ・ケア研修会開催件数 (件)	3	3	3

【業務改善の推進】

○地域の皆さんから信頼され、評価される病院として運営していくため、病院のビジョンの実現に向けて院内に設置した「夢プロジェクト」における職員の活動を通じて、プライマリ・ケアの実践や人材育成、経営の健全化などに取り組みました。

なお、「夢プロジェクト」で取り組んだ、医療サービスが受けられない知的障がい者等を支援する取組が、MIE職員力アワードにおいて部門賞を受賞しました。

目標項目	H30 目標	H30 見込	H31 目標
夢プロジェクト開催回数 (回)	12	12	12

○患者や家族の方々の視点に立った医療を安全に提供するため、医療倫理や医療安全に関する院内研修会を開催するなど、職員の意識・知識の向上等に努めました。

目標項目	H30 目標	H30 見込	H31 目標
危機管理研修等参加率 (%)	100.0	100.0	100.0

○患者満足度が向上するよう、接遇に関する研修会の開催や接遇チェック表を活用した職員の自己点検の取組を進めるとともに、患者の皆さんの意見等を踏まえ、待合室の環境改善を行いました。

目標項目	H30 目標	H30 見込	H31 目標
患者満足度 (%)	96.6	96.9	96.6

【経常収支比率・医業収支比率の向上および患者数の確保に向けた取組】

○収益の確保を図るため、院内の「診療報酬検討会」の開催により、請求漏れの防止等に関する情報の共有や、診療報酬上の新たな施設基準の取得に取り組みました。地域の医療機関、保健・福祉機関との連携による入院患者数の増等に伴い、医業収益の増額が見込まれ、経常損益は前年度に引き続き黒字を確保する見通しです。

目標項目	H30 目標	H30 見込	H31 目標
経常収支比率 (%)	101.0	106.0	103.8
医業収支比率 (%)	66.4	70.6	68.3
診療報酬検討会開催回数 (回)	12	12	12
1日平均入院患者数 (人/日)	38.0	38.8	38.0
1日平均外来患者数 (人/日)	79.0	78.2	79.0

【所管事項説明】

平成 31 年度の主要な取組

平成 31 年度は、幅広い臨床能力を有する総合診療医を中心とした医療サービスの提供を含めたプライマリ・ケアの実践や、多職種連携の要となるプライマリ・ケア人材の育成に取り組んでいきます。

また、白山・美杉地域における実効性のある地域包括ケアシステムの構築および地域医療の充実に向けて津市と検討した具体的な取組の実現に向けて、引き続き、取り組んでいきます。

【地域医療の推進】

○地域のあらゆる医療ニーズに対応できるプライマリ・ケアを実践するとともに、引き続き、訪問診療、訪問看護等の在宅療養支援や住民健診、がん検診等の予防医療に取り組んでいきます。また、へき地医療拠点病院として、県内のへき地診療所への代診医派遣を行っていきます。

○消防機関や診療所等との密接な連携を図りながら、総合診療医を中心とした 24 時間 365 日の救急患者受入体制を維持し、地域の救急医療体制の確保に貢献していきます。

○「美杉・白山・一志 保健医療福祉連携会議」の開催、「美杉・白山・一志 顔の見える会」の取組への支援や地域のイベント等への参画を通じて、地域内関係者のネットワークの構築を図っていきます。

【人材育成の充実】

○三重大学を中心に取り組んでいる総合診療医の育成に対応する拠点病院として、引き続き、研修医や医学生を積極的に受け入れ、同大学との密接な連携を図りながら実践的な研修を実施するなど、県内において総合診療医を育成するための中心的な役割を担っていきます。

○看護や介護の実習生を積極的に受け入れ、実践的な研修を行うことにより、地域で貢献できる人材の育成に取り組んでいきます。

【地域医療提供体制の確保に資する研究活動の推進】

○三重大学等との連携により、プライマリ・ケアや医療人材の育成等に関する研究を推進し、これらのエビデンスの創出・発信を通じて、県内の地域医療提供体制の確保に寄与していきます。

【プライマリ・ケアセンターへの支援】

○各地域でプライマリ・ケアを実践できる医療従事者等を育成する「三重県プライマリ・ケアセンター」の機能が十分に発揮されるよう、研修会の開催や人材育成の面から積極的に支援を行っていきます。

【所管事項説明】

【業務改善の推進】

- 病院のビジョンの実現に向けて院内に設置した「夢プロジェクト」における職員の活動を通じて、プライマリ・ケアの実践や人材育成、経営の健全化など、一志病院のさまざまな取組を充実・改善していきます。
- 「患者様ご意見箱」や「患者様アンケート」等を通じて、一志病院に対するご意見を把握・分析し、必要となる取組を検討・推進していくことで、医療サービスや職員の接遇面での対応力の向上を図っていきます。

【経常収支比率・医業収支比率の向上および患者数の確保に向けた取組】

- 地域の医療機関、保健・福祉機関との連携による入院患者数の確保等において収益の増加を図ることにより、経常収支および医業収支の向上を図ります。

県立病院課

平成30年度の取組方向

平成30年度は、それぞれの病院が求められる役割・機能を担っていただけるよう、医師・看護師等の医療従事者を安定的に確保するとともに、経営面の強化を図るための支援を行っていきます。

平成30年度の取組成果

【経常収支等の向上に向けた支援】

- 病院事業庁長と各県立病院長（志摩病院を除く）等で構成する「病院事業庁経営会議」等を通じて、各病院の運営状況を的確に把握・分析するとともに、医療と関連する保健・福祉に関する情報等を収集・提供するなど、それぞれの病院運営を支援しました。

目標項目	H30 目標	H30 見込	H31 目標
経常収支比率 (%)	101.2	99.1	101.7
医業収支比率 (%)	70.8	66.1	71.0

【医師・看護師の確保】

- 医師確保については、三重大学等への派遣要請を継続的に行うとともに、看護師確保については、看護師を養成する大学や専門学校等への積極的な訪問、合同就職説明会への参加を行いながら、随時募集を実施しました。また、医師や看護師の定着を図るため、学会等研修参加経費の支援や関係図書整備を行うとともに、子育て支援制度の運用や院内保育所の運営など、医師や看護師にとって働きやすく魅力のある病院をめざした取組を進めました。

【所管事項説明】

目標項目	H30 目標	H30 見込	H31 目標
医師充足率 (%)	100.0	87.2	100.0
看護師充足率 (%)	100.0	100.0	100.0

【志摩病院の診療機能の回復・充実】

○志摩病院の診療機能の回復・充実に向け、病院事業庁と指定管理者（公益社団法人地域医療振興協会）の代表者等で構成する「志摩病院管理運営協議会」や毎月の業務報告書の聴き取り等を通じて、運営状況を詳細に把握し、課題等について協議・調整を行いました。また、志摩病院の医師を確保するため、病院事業庁と指定管理者が合同で三重大学に対する派遣要請を実施しました。

このほか、4月から、常勤医師配置による産婦人科（婦人科）の外来診療等の拡充や、間崎島への巡回診療回数を増加させるなど、診療機能の回復・充実に努めました。

目標項目	H30 目標	H30 見込	H31 目標
1日平均入院患者数（人/日）	248.0	200.4	248.0
1日平均外来患者数（人/日）	333.0	315.1	335.0
1か月平均救急患者数（人/月）	547.0	500.6	549.0
利用者満足度 (%)	85.0	76.6	85.0

平成31年度の主要な取組

平成31年度は、それぞれの病院が求められる役割・機能を担っていきけるよう、医師・看護師等の医療従事者を安定的に確保するとともに、経営面の強化を図るための支援を行っていきます。

【経常収支等の向上に向けた支援】

○病院事業庁内の各種会議等を通じて、病院の運営状況を適切に把握・分析するとともに、国・県の医療政策の動向や病院運営にかかる先進的な取組、医療と密接に関連する保健・福祉に関する情報等を収集・提供するなど、それぞれの病院運営を支援していきます。

【医師・看護師の確保】

○医師や看護師を確保するため、引き続き、研修環境の充実や働きやすい職場づくりなど、医師や看護師にとって魅力のある病院をめざした取組を行うとともに、大学や養成機関等への積極的なPRを進めていきます。

【志摩病院の診療機能の回復・充実】

○志摩病院の診療機能の回復・充実および経営改善が着実に図られるよう、引き続き、「志摩病院管理運営協議会」や毎月の業務報告書の聴き取り等を通じて、運営状況を常に把握し、適切な連携および指導・監督を行っていきます。

【所管事項説明】

2 津市白山・美杉地域における在宅医療・介護の提供体制等に関する津市との協議概要について

1 ワーキンググループでの協議概要について

昨年度、県、津市、三重大学の三者による「津市白山・美杉地域における在宅医療・介護の提供体制等に関する検討会」で、津市から提案のあった12の具体的な取組を実現するため、昨年4月に県と津市の実務者8人でワーキンググループ（以下「WG」という。）を設置し、2月末までで計16回開催しました。

年度前半の議論では、一志病院内に「地域包括支援センター（以下「地包C」という。）」を設置するための協議を中心に行い、地包Cを病院内に設置するには、新たな動線確保の必要性などの課題が見つかったことから、院内設置は難しいと判断しました。

年度後半の議論では、12取組の事業内容等を中心に協議を行いました。主な内容としては、「認知症初期集中支援チーム」及び「認知症地域支援推進員」のように地包Cに併設することを前提としていたものは、その機能単体で、院内設置することは難しいという結論に至りました。

また、「訪問看護ステーション」や「病児・病後児保育」は、平成32年度開設を目途に、準備を進めていくことがWGとしての結論になりました。

上記以外では、「病院及び診療所・福祉施設等とのホットライン構築」や「病棟看護師等による退院に向けての在宅支援の実施」は、事業内容で概ね合意に至りました。

【12取組の主な協議概要】

項 目	協 議 概 要（2月末現在）
1 地域包括支援センター	<ul style="list-style-type: none">・医療と福祉の連携強化を図るため、当初は一志病院内への設置を目指して、具体的な設置場所の検討を行った。・検討する中で、病院利用者とは別に出入口や通路などの動線を確保するためには、新たにエレベーターの設置や別棟の新築など、高額な改修費用が必要となることから、院内設置は難しいと判断した。・院内設置をせずに、病院と地包Cの連携をより深められるよう、今まで以上に両者の関係づくりを進める。
2 認知症初期集中支援チーム	・地包Cの一志病院内への設置は難しい状況となったため、津市において、既存の地包C内への設置を検討する。
3 認知症地域支援推進員	

【所管事項説明】

項 目		協 議 概 要（2月末現在）
4	訪問看護ステーション	・平成32年度からの開設に向け、平成31年度中に民間事業者の公募条件や一志病院内の設置場所などの具体の準備を進める。
5	病児・病後児保育	・津市が実施した病児・病後児保育施設に関するニーズ調査の結果を踏まえ、一志病院での平成32年度開設に向けて準備を進める。
6	病院及び診療所・福祉施設等とのホットライン構築	・事業内容について、概ね合意に至った。
7	病棟看護師等による退院に向けての在宅支援の実施	
8	退院調整カンファレンスによる情報共有、ICT化	・ICT化による情報漏洩等の懸念や通信端末機器の整備等が必要となることから、先行事例などを参考に、導入の可否について引き続き検討する。
9	市民啓発事業及び地域密着事業	・既存事業をベースとした内容となるため、可能なものから事業を実施する。
10	生活予防事業の充実・拡充	
11	家庭医療クリニック診療体制強化	・津市から具体の事業提案がなく、検討を行わなかった
12	休診時間帯における軽症救急患者の救急車搬送受入	・軽症救急患者の受入については、地元消防署とも連携しながら、引き続き受入れを進める。

2 今後の予定

1年間のWGでの協議を通じて、事業内容については合意した事項はあるものの、県と津市の経費負担の考え方が課題となりました。12取組にかかる経費を既存契約事業（※）の追加として求める県と、同事業を減額して、事業費を置き換えたいとする津市との考え方の溝は埋められませんでした。

今後も、白山・美杉地域における実効性のある地域包括ケアシステムの構築並びに地域医療の充実に向け、津市との協議を継続し、可能なものから実現を図っていきます。

（※）既存契約事業（契約額：32,133千円）

- ・訪問診療、訪問看護、訪問リハビリテーション等の在宅療養支援の実施
- ・久居及び白山消防署管内からの軽症救急患者の受入
- ・保健医療福祉連携会議、地域ケア会議の運営支援
- ・みんなで考える集いの開催
- ・健康教室、糖尿病教室、健康啓発出前講演の実施